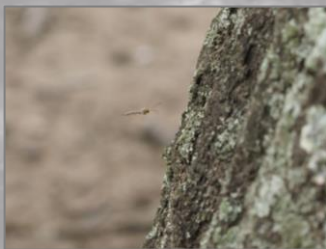


去年の10月の話。去年から
通い始めた葛飾区の水元公園
でぶらぶらしていると、木の
幹の根本付近にアリの行列が
見え、立ち止まった。アリヤ
ドリバチというアリに寄生す
るハチの存在を知ってから、
アリの行列を見るとつい立ち
止まってしまう（Vol.33参照）。
淡い期待を胸にじっと見てい
ると、なんと華奢なハチが飛



ホバリングするナワニジヒメバチ
この時はアリを探しているのかと
思ったが、クサカゲロウの繭を探
していたようだ。

ナワニジヒメバチのメス
黄色と黒のストライプ模様が美し
い。

んでいるではないか！アリの行列に近づいているようにも見える！その時は、アリヤドリバチに再会したと思った。しばらく観察し続けていると、木の幹のアリの行列から離れて、地面に生えていた草の上に止まった。一旦休憩してるのかな…と気を緩めた矢先に、なんとそのハチが腹部を折り曲げて産卵態勢のような姿勢になった！アリじゃなくてそっち？！と慌てて見てみると、何やら葉の隙間にある白い球体に産卵している様子だった。とりあえず、アリヤドリバチではないことは明らかになったが、一体何に卵を産みつけたのか全くもって見当がつかない。とりあえずその白い球体を持ち帰ってみた。

後日、結局白い球体の正体がよく分からなかったもので、この一連の観察のことを写真付きで某SNSに投稿してみた。すると、このハチは「ナワニジヒメバチ」というハチで、「クサカゲロウに寄生することが知られている」と詳しい方が教えてくださった（SNSってすごい！）。つまり、あの白い球体はクサカゲロウが蛹になる時につくる繭であることが分かった。さらになんと、ヒメバチの研究者の高須賀先生からDM（Direct Message）をいただき、ナワニジヒメバチの産卵の様子を観察したのは初の事例なので共著で報文を出しましょうとご提案をいただいた。思わぬ提案におおろしてしまう。高須賀先生と言えば、東海大学出版の『フィールドの生物学』シリーズで、クモに寄生する「クモヒメバチ」に関する本を書いている研究者だ。年齢も近く、世の中には同年代ですごい人がいるんだなぁと感心しながら熟読していた（この本は面白すぎて2周した）。そんな方から連絡をもらったもんだから恐縮してしまったが、おかげで研究者との共著という大変貴重な経験をすることができた（文章を書いたのは高須賀先生で、ぼくは写真と観察の様子を伝えただけだが）。ナワニジヒメバチのクサカゲロウに対する産卵行動については、膜翅目研究会が出版する『すがれおい』という雑誌に掲載された。ちょっと内容が難しいが、今回の観察で、ナワニジヒメバチはクサカゲロウの幼虫ではなく蛹に産卵することが始めて観察され、ナワニジヒメバチの寄生行動が「飼い殺し型」ではなく、「殺傷型」であることが裏付けられた。詳しく知りたい人はぜひ読んでみてください。

報文を出してみた③ヒメバチ研究者との共著 クサカゲロウに寄生する ナワニジヒメバチ



クサカゲロウの繭に産卵する寄生蜂のナワニジヒメバチ 2024.10.1 水元公園

SNSにこの写真を投稿したら、ヒメバチ研究者の高須賀先生から連絡が来た。近縁種の生態から、このナワニジヒメバチはクサカゲロウの繭に寄生することが予想されていたが、証拠がなかったようだ。今回、水元公園でたまたまその産卵行動が観察できた。



クサカゲロウの繭（左写真の白い球）と、数週間後に解剖して取り出したナワニジヒメバチの成虫の死骸（右） ナワニジヒメバチが産卵した後のクサカゲロウの繭を持ち帰ったが、待てど暮らせどハチが羽化してこない…。産卵行動から数週間後、高須賀さんに送って解剖してもらったところ、残念ながら死んでいたが、成虫のナワニジヒメバチが出てきた。これでナワニジヒメバチがクサカゲロウの蛹に産卵し、寄生して成虫になることが初めて明らかとなった。なぜ死んでしまったのかは不明（ぼくの飼育能力の無さが原因です…）



今回の観察例が掲載された膜翅目研究会の会誌『すがれおい』第7号 高須賀先生が5ページ分のボリュームで詳細に報文を書いてくださった。

高須賀先生のご著書
クモに寄生するクモヒメバチの研究に関する本。超面白いので研究者を目指す人にはとくにおすすめ。

